

事業報告

〔自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日〕

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

令和5年の日本経済は、コロナ禍を乗り越え、緩やかな回復基調を取り戻しましたが、業況や収益など企業部門は好調である一方、これが賃金や投資に十分に結び付かず、内需は力強さを欠いている状況にあります。

また、コンサートプロモーターズ協会による令和5年の市場概況では、動員数が初めて5千万人を超え、市場規模も5千億円を超えたものの、公演数・動員数が共にコロナ禍前の令和元年を上回った地域は、アリーナ5会場が新設された関東のほか、東海・関西の3地域に限られており、なおも全国的な市場の回復には至っていないとされています。

そのような中、当ホールにおいては順調にイベントが開催されていますが、物価高騰や働き方改革への対応などの課題があり、今後のイベント開催への影響を注視する必要があります。

当ホールは開業40年を経過し、引き続き施設・設備の適切な保守点検と改修を実施し、一層の安全性、快適性の向上を図るとともに、消防訓練等を実施するなど、更なる安全管理に取り組んでまいります。

令和5年度のアリーナの稼働日数は333日(本番日数211日)、稼働率91.0%となり、前事業年度の稼働日数330日(本番日数210日)、稼働率90.4%を上回りました。事業収入も23億25百万円と、前事業年度(22億82百万円)に比し増収となり、これに広告収入等の関連事業収入1億32百万円(前事業年度1億1百万円)を加えた総売上高は24億57百万円と、前事業年度(23億84百万円)に比し3.1%の増となりました。

一方、売上原価は、稼働日数の増加に伴う催物運営委託費等の増加により、12億14百万円と前事業年度(11億65百万円)を上回り、販売費及び一般管理費の85百万円と合わせた経費合計は12億99百万円と、前事業年度(12億48百万円)を4.1%上回りました。

この結果、当事業年度の営業利益は11億58百万円となり、法人税等を差し引いた当期純利益は7億74百万円となりました。